

# 『もっと知りたい 川のはなし』

著者 末次 忠司 出版社 鹿島出版社

## ◇本書の趣旨

昔、川は生活(生活用水、洗濯)や産業(田圃の水、染色)など、私たちに密接に関係していて、みんなにとって重要な場所でした。それが世の中の関心事が増えるにつれ、また自然から離れた都市生活を志向する傾向が強くなるにつれ、人々は川から疎遠になってきました。

しかし、川の水は人間の生活の基礎を支え、産業の重要な資源であるという点では、今も昔も変わっていません。また、洪水が発生したときに迅速かつ安全な対応を行うためにも、川のことをもっともっと知ってもらう必要があります。著者はこれまで全国の川を見て、ある時は河道計画についてアドバイスし、またある時は治水対策の提言を行ってきました。その経験を生かして、技術論ではなく、まさに住民河川論としての河川事典を刊行しようと考えました。河川に関心を持ってもらうことが、今後の川のあり方を考えるにあたって重要であると考えたからです。そこで、全国42の事例を現地で取材するなどして調査・整理し、本書にとりまとめました。

本書を読んで、「川っておもしろい」「川って不思議だ」などの印象を持っていただければ、そして、川に関心を持ち、川のファンになってもらえれば幸甚です。

## ◇構成

### I 古くてもすごい技術

日本三大奇橋  
立体交差する川あれこれ  
畳で浸水防除する工夫  
上にあがる橋  
潜ってしまう橋

### II 地下を流れる川

パルテノン神殿か？

2階建ての川

下流から上流に流れる川で水質改善

### III 珍しい川の風景

大量の魚が飛び交う光景  
川のなかにある空港  
温泉が出る川  
遊水地の中でサッカー  
標識のある川  
精霊流し？  
道路を閉じる閘門

## <本書で目指したこと>

- もっと多くの人に、河川への関心を持ってもらい、河川のことを知ってもらう→川っておもしろい、川って不思議だと思ってもらう。
- 河川の応援団に参ってもらう。
- 想定する読者層は一般の大学生～中年層(アマチュアとプロの間)とした。
- 現地を見に行きたい人のためのアクセスマップも付けた。
- 現地で手に持ちやすいよう、ポケット版とした。

(本書まえがき(末次 忠司)より引用)



四六判 160頁

### IV 歴史のなかにも川がある

川から出てきた遺跡

川に灯台がある？

伝説の竜神

ダムではなく橋から放水

### V 自然が造り出す天然・芸術美

幻想的な霧が流れる風景

壁に刻まれた奇妙な岩肌

日本のグランドキャニオン

川で直接見れる断層

### VI 我こそが一番なり

日本一短い川

第一白川橋梁

川でマラソン

### VII 環境に挑戦している川

川の中で水質処理

魚のためのエレベーター

川の中を覗く

都市の隠れた河川